官刻孝義録　巻三十

丹波　丹後

但馬　因幡

ロ 9
1596
30

孝義録巻之三十

丹波國

奇特者　御代官支配所　氷上郡下滝村　農夫　喜右衛門　八十歳　寛政七年御褒美

○孝行者　松平主殿頭領分　天田郡土師村　百姓　七左衛門　歳不知　年不知褒美

○兄弟睦者　同領　天田郡平野村　百姓　市左衛門　歳不知　年不知褒美

○兄弟睦者　同領　同所　市左衛門弟　与三郎　歳不知　同断褒美

孝行者　松平紀伊守領分　氷上郡柚津村　無田百姓　忠七　四十六歳　宝暦元年褒美

孝行者　同領　氷上郡八田下村　無田百姓善兵衛娘　さや　四十四歳　宝暦八年褒美

門 9
號 1596
巻 30

孝行者　同領　桑田郡大内村　元田百姓　六右衛門　四十四歳　明和元年　褒美

○孝行者　同領　船井郡須知村　百姓猪右衛門母　とか　三十歳　明和四年　褒美

○孝行者　同領　桑田郡田能村　百姓杢之丞悴　市三郎　二十五歳　明和五年　褒美

○孝行者　同領　桑田郡芦渡田村　百姓　市助　五十歳　明和七年　褒美

奇特者　同領　船井郡篠谷奥村　元庄屋　伝之丞　五十二歳　安永八年　褒美

孝行者　同領　桑田郡柏原村　元田百姓文八悴　文右衛門　二十八歳　天明六年　褒美

孝行者　同領　桑田郡南保津村　元田百姓清助悴　六之助　二十九歳　寛政二年　褒美

孝行者　同領　桑田郡勝林島村　百姓　茂右衛門　五十二歳　寛政二年　褒美

孝行者　同領　桑田郡柏原村　百姓茂七妻　とよ　三十六歳　寛政二年　褒美

孝行者　同領　亀山城下古世町　町人小刀屋惣七娘　きゑ　三十六歳　寛政二年　褒美

孝行者　同領　船井郡八田下村　百姓　次郎右衛門　三十歳　寛政二年　褒美

奇特者　同領　亀山城下河原町　町人酢屋　源海若左衛門　五十九歳　寛政二年　褒美

奇特者　青山下野守領分　多紀郡高坂村　庄屋　勘右衛門　三十五歳　明和五年　褒美

風俗宜者　同領　同所　惣百姓　同時　褒美

農業出精　同領　桑田郡船井南村　百姓　甚右衛門　八十三歳　明和七年　褒美

○奇特者　同領　多紀郡古佐村　古佐組大庄屋　森五右衛門　三十八歳　明和八年　褒美

孝行者　同領　多紀郡吹下村　無田百姓　勝右衛門　四十九歳　安永元年褒美

孝行者　同領　同所　勝右衛門妻　くめ　三十四歳　同時褒美

孝行者　同領　多紀郡泉村　百姓吉四郎妻　いし　三十八歳　安永六年褒美

農業出精　同領　多紀郡味間新村　百姓　五郎兵衛　四十九歳　安永七年褒美

孝行者　同領　多紀郡岩之末村　百姓　利八　四十九歳　天明三年褒美

奇特者　同領　多紀郡今田村　庄屋　新右衛門　四十五歳　天明四年褒美

奇特者　同領　同所　村役　清右衛門　四十五歳　同時褒美

風俗宜者　同領　同所　惣百姓　同時褒美

兄弟睦者　同領　多紀郡垣屋村　百姓浅平二男　与市　六歳　天明四年褒美

奇特者　同領　桑田郡矢代中村　百姓　吉右衛門　三十五歳　天明五年褒美

孝行者　同領　篠山城下上立町　町人小間物屋　弥左衛門　五十三歳　天明五年褒美

孝行者　同領　篠山城下二階町　町人板屋　勘兵衛　五十六歳　天明五年褒美

孝行者　同領　篠山城下下西町　町人　徳左衛門　五十七歳　天明五年褒美

孝行者　同領　同所　徳左衛門弟　吉七　四十六歳　同時褒美

孝行者　同領　篠山城下下立町　町人矢代屋弥左衛門娘　せん　三十二歳　天明五年褒美

孝行者　同領　篠山城下下立町　町人鍋屋七兵衛後家　やな　五十二歳　天明五年褒美

○

孝行者　日向領　多紀郡岩谷村　百姓　左助　二十歳　天明六年褒美

孝行者　同領　多紀郡谷山村　百姓八郎右衛門悴　卯之助　八歳　天明七年褒美

孝行者　同領　多紀郡縣守村　同所百姓小右衛門娘　志な　四十一歳　天明七年褒美

奇特者　同領　桑田郡中熊田村　百姓　源次郎　五十二歳　天明七年褒美

風俗宜者　同領　多紀郡黒岩村　惣百姓　天明八年褒美

奇特者　同領　多紀郡木之部村　木之部組大庄屋　太郎左衛門　六十一歳　天明八年褒美

孝行者　同領　多紀郡井上村　百姓六左衛門妻　とみ　三十二歳　天明八年褒美

孝行者　同領　多紀郡川原村　百姓数助妻　清祢　五十四歳　天明八年褒美

孝行者　同領　多紀郡郡家村　百姓　幸左衛門　四十四歳　天明八年褒美

孝行者　同領　多紀郡黒岩村　百姓孫兵衛悴　十右衛門　三十四歳　天明八年褒美

孝行者　同領　多紀郡畑尻村　百姓　茂兵衛　二十五歳　天明八年褒美

孝行者　同領　多紀郡町之田村　百姓茂左衛門弟　長七　二十九歳　天明八年褒美

孝行者　同領　多紀郡東小田中村　大工平左衛門妻　そね　四十一歳　天明八年褒美

孝行者　同領　多紀郡宇土村　大工　半左衛門　三十八歳　天明八年褒美

孝行者　同領　同所　半左衛門妻　くめ　二十八歳　同時褒美

孝行者　同領　多紀郡新村　同所百姓三右衛門娘　とめ　三十一歳　天明八年褒美

孝行者　同領　多紀郡細掛村　百姓長次郎悴　亀七　二十一歳　天明八年褒美

孝行者　同領　多紀郡大沢村　百姓　数左衛門　二十九歳　天明八年褒美

孝行者　同領　同所　数左衛門弟　仁左衛門　二十六歳　同時褒美

孝行者　同領　多紀郡大付村　百姓　吉六　七十歳　天明八年褒美

孝行者　同領　多紀郡四斗谷村　安田百姓忠兵衛悴　忠七　二十五歳　天明八年褒美

孝行者　同領　多紀郡吹下村　百姓伊左衛門二男　茂七　三十六歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡芳地奥村　百姓　嘉左衛門　五十九歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡芳地奥村　百姓　十三郎　五十一歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡小中村　肝煎　十右衛門　三十三歳　天明八年褒美

農業出精　同領　同所　十右衛門子　長左衛門　三十歳　同時褒美

農業出精　同領　同所　同　浅右衛門　二十七歳　同時褒美

農業出精　同領　多紀郡安田村　百姓　玄助　四十六歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡二ノ坪村　百姓　惣助　五十八歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡門条村　百姓　孫三郎　三十五歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡門条村　百姓　六右衛門　五十三歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡縣守村　百姓　彦右衛門　五十九歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡福井村　百姓　嘉右衛門　五十六歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡市野々村　百姓　甚平　四十七歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡新庄村　百姓　平右衛門　五十九歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡泼家村　百姓　重右衛門　四十六歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡郡家村　百姓　弥兵衛　七十四歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡寺内村　百姓後家　常七　二十四歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡佐倉村　庄屋　庄助　四十八歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡大北村　百姓　庄七　四十八歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡西岩谷村　百姓　六右衛門　四十三歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡西濱谷村　百姓　清兵衛　四十七歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡西木ノ部村　百姓　善七　五十九歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡黒田村　百姓　甚助　五十九歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡大山宮村　百姓　重右衛門　二十八歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡一下谷村　百姓武右衛門倅　文兵衛　三十二歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡東河地村　百姓　徳兵衛　六十二歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡金谷村　百姓　新太夫　六十六歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡栗栖村　百姓佐五兵衛伜　安之丞　三十二歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡古市村　百姓　権助　五十九歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡東小多田村　百姓　太郎左衛門　五十九歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡池上村　百姓　伊左衛門　六十二歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡味間新村　百姓　十助　六十歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡杉村　百姓　喜左衛門　六十八歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡初田村　百姓　八兵衛　五十歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡西古佐村　百姓　六右衛門　五十九歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡吹中村　百姓　浅平　七十二歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡吹下村　百姓　源四郎　五十八歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡波賀野村　百姓　安左衛門　五十八歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡油井村　百姓　太郎左衛門　五十九歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡今田村　百姓　治右衛門　三十二歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡下立杭村　百姓　権左衛門　六十五歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡野中村　百姓　安兵衛　三十八歳　天明八年褒美

農業出精　同領　多紀郡岩崎村　百姓　孫助　三十八歳　天明八年褒美

奇特者　同領　桑田郡中熊田村　大庄屋　太右衛門　三十二歳　天明八年褒美

孝行者　同領　篠山城下上立町　町人小間物屋　十右衛門　二十七歳　天明八年褒美

孝行者　同領　篠山城下下河原町　町人鍋屋　喜之助　四十九歳　天明八年褒美

孝行者　同領　篠山城下魚屋町　町人松屋　源七　四十一歳　天明八年褒美

孝行者　同領　篠山城下下河原町　町人知足屋　庄七　五十三歳　天明八年褒美

農業出精　同領　篠山城下下立町　町人猿屋平兵衛悴　嘉助　三十三歳　天明八年褒美

農業出精　同領　篠山城下下西町　町人　七之助　三十一歳　天明八年褒美

農業出精　同領　同所　七之助妻　はな　六十九歳　同時褒美

農業出精　同領　篠山城下下西町　町人　長助　五十九歳　天明八年褒美

農業出精　同領　篠山城下下立町　町人新庄屋市左衛門後家　わさ　四十七歳　天明八年褒美

奇特者　同領　桑田郡周山下村　百姓治左衛門後家　よし　七十二歳　寛政元年褒美

奇特者　同領　桑田郡又な松村　庄屋　文七　六十歳　寛政二年褒美

孝行者　小出対馬守領分　氷上郡萑部村　百姓長右衛門娘　かめ　歳不知　享保七年褒美

孝行者　同領　氷上郡舟枝村　沼田百姓　善之亟　歳不知　宝暦二年褒美

孝行者　同領　氷上郡小山村　富百姓孫兵衛悴　善六　歳不知　宝暦五年褒美

孝行者　同領　同所　善六妻　名不知　四十二歳　同時褒美

奇特者　同領　船井郡和知市場村　百姓　善之助　歳不知　宝暦九年　褒美

孝行者　同領　船井郡上河内村　百姓　兵四郎　四十二歳　明和二年　褒美

孝行者　同領　船井郡朴田村　百姓　新六　四十九歳　明和六年　褒美

孝行者　同領　船井郡瓜生野村　水呑百姓伝左衛門娘　そめ　二十歳　安永九年　褒美

孝行者　同領　桑田郡中野村　水呑百姓新助悴　亀之助　二十三歳　天明四年　褒美

孝行者　同領　桑田郡野々村之内市場村　百姓　善兵衛　四十三歳　天明五年　褒美

孝行者　同領　船井郡八木村　百姓源六悴　吉之丞　三十七歳　天明五年　褒美

兄弟睦者　同領　同所　同寺　左助　七十六歳　同時　褒美

孝行者　同領　船井郡谷村　百姓　善右衛門　三十四歳　寛政元年　褒美

孝行者　同領　船井郡志和賀村　百姓　五郎兵衛　四十五歳　寛政二年　褒美

孝行者　同領　船井郡大村町　町人孫八後家　よね　五十歳　寛政二年　褒美

孝行者　織田出雲守領分　氷上郡大呂村　水呑百姓　さん　三十三歳　天明四年　褒美

孝行者　同領　氷上郡遠坂村　百姓仁助娘　かほ　五十九歳　寛政二年　褒美

孝行者　同領　氷上郡野山村　百姓　幸七　三十五歳　寛政二年　褒美

孝行者　同領　同所　幸七妻　まさ　二十九歳　同時　褒美

孝行者　同領　氷上郡本々村　百姓　善兵衛　四十五歳　寛政三年　褒美

孝行者　同領　氷上郡栗住野村　百姓　伊右衛門　五十三歳　寛政三年　褒美

孝行者　同領　氷上郡東芦田村　百姓　若七　五十五歳　寛政三年　褒美

孝行者　同領　氷上郡田井縄村　百姓　清右衛門　五十五歳　寛政三年　褒美

孝行者　同領　氷上郡山垣村　百姓　与三右衛門　四十一歳　寛政三年　褒美

孝行者　九鬼定五郎領分　何鹿郡大嶋村　水呑百姓　嘉之助　六十歳　寛保二年　褒美

孝行者　同領　何鹿郡佐治屋村　百姓　長平次　六十二歳　寛延元年　褒美

孝行者　同領　何鹿郡長砂村　水呑百姓又之丞娘　かち　三十八歳　宝暦八年　褒美

孝行者　同領　何鹿郡小貝村　百姓与之丞娘　さわ　三十七歳　安永二年　褒美

奇特者　同領　天田郡三俣村　百姓　喜太夫　六十四歳　天明二年　褒美

孝行者　同領　何鹿郡井倉村　百姓仁左衛門母　すぎ　五十五歳　天明四年　褒美

孝行者　同領　何鹿郡高津村　水呑百姓　源之助　三十七歳　天明五年　褒美

孝行者　同領　何鹿郡東栗村　水呑百姓　小次郎　五十歳　寛政元年　褒美

孝行者　同領　同所　小次郎妹　すて　四十歳　同時　褒美

孝行者　同領　天田郡萩原村　水呑百姓市助娘　ちよ　三十六歳　寛政三年　褒美

奇特者　谷出羽守領分　何鹿郡安見村　百姓清之丞祖父　全了　五十四歳　宝暦五年　褒美

奇特者　同領　何鹿郡志賀村　庄屋　十右衛門　五十三歳　安永二年　褒美

孝行者 丹波 何鹿郡位田村 百姓 浅次郎 三十三歳 天明八年褒美

孝行者 丹波 何鹿郡下村 百姓太平次妻 いし 三十五歳 寛政二年褒美

孝行者 川勝式部知行所 氷上郡鴨庄小多利村 百姓 亀七 三十一歳 寛政六年褒美

孝行者 同知行所 氷上郡鴨庄南村 元百姓市右衛門娘武左衛門妻 とよ 四十四歳 寛政六年褒美

孝行者七左衛門

七左衛門ハ天田郡土師村の者なり父ハ井上氏祖父を
蘆田五郎左衛門といひ次を以て五郎左衛門土師村乃主蘆田
小服ふつ人て白山乃すめ乃も井上氏妻を後とりて
二人の子あとも有り七左衛門ハ其の末子なり五郎左衛門
死して後井上氏妻を子として成歩人て土師村の民と
あるより家貧くして不快くしても衣食とりのふえ
し父母ともに良い是なえて心得りおもとさそき
しと七左衛門力をつくしてよく孝を尽し人の身のそえを
こともまうりて言を聞き暦を以て疾ば

あまく成て後父母を寝しめてその人よくいぬるを
うかゝひてさし足して出るかあらハ衾をかけて退
き其眠を驚さん事をおそる父母も自らおきれハ
安否をとひ父母の足を己か懐にいれあたゝめて外
さむしといへる夜ハ冬ハ寝てもおきて暑き日ハ
木陰乃涼しき所に席をうつし日をさへきりて父母
をやすらしめまつり父母の髪を梳りなとして其好むを
教せし又寝る時ハ枕をあふきて冷しくし
む飲食乏しき時ハ己ハ飢渇をも忍ひて父母を
父母をして飽しめさる事なく且その乏しからさると

志らしめて外に出て先つはしきを物にもおそれ給ハぬよく
然すむ母のつねに雷を恐れけれハその音をきゝける
時ハかならす傍に侍りて外にあれハ速に帰り
て傍に在り かくのことく貧しくくらしぬれとも年の貢を
かくかならす未進の責をうけしことなく他人の
物をとらす其人となり柔和にしてよく農業をつと
めけれハ一村の人もあつくそのこゝろを感し年〳〵
妻を娶りてさらに家のくるしきにもまさりて
て父母のこゝろ安くせむとすなる妻も又夫にならひて
よく舅姑につかへ又父母の外に出んとする時ハ先立

かゝるく背おひ出居りし雷になりしかハいかりしに
走りて背おひまゐらせ家に入居りしとぞ
らけて年をへてくるとさもとりへも孝りし
兄弟孝養を譲らずやかて水旱の凌ぎなりハひおしくと
つとめしかバ田の作りもよく旱にも枯れぬとぞ
て父母の心ばやすからしむ万治三年の四月に父八
十にくらせ寛文元年の二月母死す八十二にて身まかり
ぬるまで七左衛門ハ殊にかなしみて深く是を歎きけるに
葬の日ハさらに墓にこもり二夜香花をそなへし七日ごと
に僧を請じて経よませ懺法を修し月ごとの

忌日にハ墓にまうでて又雷の声いさゝかも耳に
入れバ必母の墓にゆきて泣居りしとぞ扨も領主
より襃美として金銀あたへて賞し給へり
家に帰りて兄ハとかく弟に譲り弟ハ兄にとかく譲り互に譲り
あらそひくやまぬを終にこれを母の名にもとへて家の宝と
せり領主かくと聞て貢をゆるし保役をのぞき給ふ

兄弟睦者　市左衛門

兄弟睦者　与三郎

天田郡平野村の百姓に市左衛門与三郎とて兄弟のもの
あり幼くして父母にはなれしかバ人にやとはれてかくて草をとり

まて在しかれとやうやく人となりて兄父の田をうけ
耕しけるを彦次同しく力をそへて年々に貢怠ら
ず此郡は水旱凶年といへとも未その貢をとゝこほらす
なかれは村長もその精勤を称せる貧しきなかにもあはれ
なる家に業をよくしけむと人々も兄弟か性を
彦次は兄と志を同くして睦く力を農事に尽し貢
物おさめしくしくみなるとき飯をもくらふ雑穀すくなくは
木の実なとくひ飯のあるときは母と兄とにくはせて来年
の種をものこしあまるものにて木綿をかへて衣とし兄
弟に出る時ぬくくきせかくよ暖しくなるこのくすれ事

十餘年兄に妻あるへき子はいかりけるを兄は彦
のそのために數家へもあるにて田をも年々にて三比の労
をもてひんとして兄には妻子をあれとも多くいかち
てもわか人しこれにて獨身なるよしをきこしめしくもたせ
ましといふを兄にて母とも議の如くにいひて流布ま事とこそ
まさ後彦のもとにあり妻を迎へて家産の半分わかち
譲せるを兄に妻子とくわかにをそのまれは夫婦のともな
せは三分の一なそてまそのといふを兄かのましさしくて
生をなしてわか身は二分の一をうけてあまれる分は嫂に
えし菜菓の料にあてし殊人といへて兄をもやしむ事を

ねらして其心にまかせしが家に二の牛あり一ッを肥て
一ッを痩たり兄は肥たるをゆつらんといふに甚介なさ
まし猶たのしくあらんといふを謙乃人女ありて
終に肥たるを兄のかたへ遣しぬ猶をとりもおさむる
こても身は刈れさまにて兄は悔ことなりけるを経られを
必ずや牛ゆゑ行てまつく年の貢をおさむるにも
兄身そのわたまるけあひて遅速なくおさせ兄弟を推り
へく同くしへせり雨空の日まは身ひとり起て兄の家に
ゆきて賀をれハ兄と茶を羨して共に世をまちそりに
田まいりて耕し兄豆体との時身乃家りゆふへをも

妻菜をいとしみあれを伴ちいひあらぬさかりたハうれしく
欣ひける兄歓て乃ち身を彼せりまた友愛のまたを
あらはす大むねかくのごとし寛文六年丹後乃宮津ま
て身人衣まゆるせゆく事ありしは兄妻をとらせ
あ河もち兄食ものゝ年々に兄も身を身むらひ
ある海の流をむる業を敬をて津うりなく浦の来れを
しら敬せまるの労もる事なきれとく出しやり
しりそれ海りを伴ちて所ひあきなる食ものとし
あれ身は来年をまちてうけんといふをうらみあり
さして終にかへせりさらなく価まて安くてうける

褒美として其身にその課役をのぞかれけり

農業出精甚右衛門

甚右衛門ハ秦田郡紀井南村にて高六石八斗一合あまりをもて
る百姓なり享保乃比松平紀伊守領主たりし時細
撿の奉行村の中を巡見せしに甚右衛門か田ことさらよ
稲出来つらしかは庄屋よりして細撿をこはんといふに
甚右衛門もとより田に苦ある事をおほしく刈とるまての出
いかなる事をもてせしにやあらん作る所ハ田の熟
せざれハ農人の知る所なり奉行の細撿をゆるして
三度まてとなへけるをまちかねて次のとしまてかの

其ろふに年貢に納る所の石数多ろしかは
及とり次御蔵に納めしかと此年ハたけく秋多
くせさる蔵の役人其納をゆるさず是非とも甚右
衛門か米ハ出来さるにより何と此米なくて庄屋も
ほとこ甚右衛門か奉行の細撿をゆるしてかりとるを
を感して其のまゝに納めしむ次の年ハいよいよ豊ならす
法をもかして此知行をゆるしむへしとて甚右衛門ハ人
まさるれとも力をそせしかハ秋乃みのりも他にまさりて
て細撿をとられまた及ひて次稲をかりて村長乃
心をも今年ゆくかに熟せるをかりまた夫是ハ熟せ

秋をさとよむへしとく田乃畔ふを見まく細撿の役人
乃きたるとまちをらしとのへて後刈納めなる南村
のうちに極めて貧しき者ありしといへれは食代
絶して終ふかく几百姓として家族ともに耕作とか
さし免る明和の末南村あり ひあしく所園露せ
しれいくるか年乃春飯至る里さくひ此界といふ
ちいくへしと百姓ともよろこひあへるときに
甚右衛門くらく几百姓を作りしも其穀物のうち
あてをくりたるを上に納むるはおもむく所つ免
給ひし米の事をいひ見まへるへの手まありけし

もののをへし給ひありよろこひあるは先々もちから
きう我すへしとて其志ふかて八百姓の業をも遂かたうけ
んとおもひけるをもつて甚右衛門齢八十に及ひ耕作なり
かたく世の人も日々に小紙を提て田畑よりかえる
事なし人みな其故をとへは年若の時より出仕をも
せしことはてつねに倹約をまもりし妻子ともに小屋なり
をも常とさいし先父よりもうけつたへたる田を増ひ
ろめすなわち又減さしめす年々の貢八定の
僅しとも怠らて納し外よりも穀物よく
熟しし山林をもまもり志ありしかと其子の市郎兵衛を

妻も嫁もまめやかによくつかへ孫も二男二女ありて
家和らき睦しく聞えけり或る時市郎三郎山より入木
を樵きて筋骨を損せしかハ温泉に入て療治せん
といひしを甚右衛門悲しミたまひ病癒るともかれ
くハ身乃為よくて温泉にいたるへきものにあらね
幸農業にも害なくましましゆゑさて又幼き孫
の孫ありて枉を削せるを市郎三郎数多を化ま
しけれ甚右衛門ハ幼きものく業にも田の用水を
とらせ又ハ田乃畔をも踏くつされハ禁むへき事
なり孫ハ農具の一つ川に流せるも幼きよりよく訓るを

よしとてまたもひ枉を削るとも悲むへくいましむる
にそれほとの人の聞くさりまたのまれて人より
金銀を借りしもあへくふるまひ返すへき月より先
にあらくもしたくハへるもの金銀をとりて償ひけり
さるくハへ事紀州にて作せる所の物をもゑらくも生
へられて人々に甚右衛門を信しけるとそいはれし
領主より此よしく明和七年六月屋敷にて一斗一升を
あく賞せるに一時乃褒美として米代も
あたへたまへり

奇特者源次郎

源次郎は桑田郡中熊田村乃百姓なりしがその父家此
貧しきにせまりて彼が生れし比同郡鳥居村乃
鳥居又八郎といへる翁に養はれ年頃のまゝに雇はれ
給金得て召仕はれなかりしが夜ことに縄なひて主の為
八郎数年を失ひ家をたゝみ門をもたず残し置
京都に稼ぎにいく源次郎まで呼よせしに
奉公乃よしを問ふことさへ八何事ぞと思ひて其し
給の残へしいはする銀若干をさゝげ厭ひ無く次第
いふ事あれば又八郎もよろこびて志を遂しと家の内
乃事共半ちからをもて仕へ母はたしてふたり人に仕ふる

身をわすれて後方なく暁よりさ夜迄生業
やうやう年来しをる程に又八は忘れしとて年頃の給文
に銀を入て何くれとしつゝ源次郎いなく辞して給
金を返し来しをぬれときぬるゝ程しもたひぬれば
又も銀賜らんことゆるしく思ひつゝ源次郎ともよろこびける
あまた何かしらよいむさし候て世事りわくても多う
村里に帰りてもワラうれ田畑を耕しいさぎよく酒をたち
日ごとなる所に人を多く十七石余斗の余りの田も
ちとなりし今は人すくなにて世をなうるも又か
古主乃事を忘れて鳥居村まてハ二里もあり又

あるれと年の初には五八郎か門乃誼に出ゆく礼
をなしけるに遠く怠らす父には主の家に行
ましけるにもちまちまれ一人の母によくつかへ家内乃
交り睦しく村人もこゝろよく慕ひよりけるか程に安永
三年に村の肝煎となり天明七年米の價たかく
近里又は隣村よりも飢たるやから来りしに是を
に一飯をあたへし事幾度にも及へく領内乃民の
米穀あまた借しけるものと同しく称美に預
りぬされと母はよはひ八十七なりけれはさう人の物よも
ときく此七月母の年賀乃筵をまうけゝる村人をも家に

招きくれてかし偖白米柳掛物子をもてなしこゝを家毎
にそ送りしか此事後大庄屋の何かし公事によりの
て来りけるか神乃柳を志らけし米を二把あまりあ
るをとりてくはせに年賀の詫まりしにをかこそ程よく
借人あるにそ去年秋は錐か家にて知るなりきをひ
よみろぬにいかにして切れかはかりし米をは徳人
志をといはす源次郎かも家ねもてなすかる一に餘
に奉かんなり一は母か民部にいれしぬ如何なるとけて
推したまりしなりと其ふ大庄屋斜ならて感し
て篠山の城下にまうてゝはいくたひと訴へけれは

その身酒肴をかゝると称し香菓を献じける事を
ゆるかし母にハ錢を与へたまひし今年十月の事な
りし

丹後國

奇特者　御代官支配所　熊野郡久美浜村　百姓　稲葉友右衛門　二十三歳　天明七年御褒美

奇特者　同支配所　熊野郡久美浜村　口馬地村庄屋　喜之烝　五十一歳　天明七年御褒美

孝行者　同支配所　竹野郡吉永村　百姓　傳次郎　四十五歳　天明八年御褒美

孝行者　同支配所　中郡奥大野村　同所百姓　太助　六十三歳　寛政三年御褒美

孝行者　牧野佐渡守領分　加佐郡田邊溝尻村　同所百姓喜右衛門娘　なを　四十二歳　元文元年褒美

○孝行者　同領　加佐郡岡田由里村　百姓善右衛門悴　武兵衛　五十二歳　寛保三年褒美

○孝行者　同所　武兵衛妻　たよ　四十二歳　同時褒美

○

孝行者　同領加佐郡由良村脇　百姓彦左衛門悴　権右衛門　五十三歳　寛保三年褒美

孝行者　同領同所　枡右衛門妻　ふく　歳不知　同時褒美

孝行者　同領加佐郡富室村　百姓佳三郎娘　小女郎　五十一歳　延享三年褒美

孝行者　同領加佐郡多門院村　百姓忠右衛門娘　さん　四十六歳　明和五年褒美

孝行者　同領加佐郡公文名村　百姓伊右衛門悴　源太郎　十四歳　明和五年褒美

孝行者　同領田邊城下朝代町　町人長兵衛後家娘　いせ　三十六歳　安永六年褒美

孝行者　同領加佐郡田邊南有路村　畠百姓源兵衛悴　兵助　三十二歳　天明五年褒美

孝行者　同領同所　同　源次郎　二十二歳　同時褒美

孝行者　同領加佐郡上漆原村　百姓清左衛門悴　定次郎　三十歳　天明七年褒美

孝行者　同領同所　定次郎妻　さき　二十九歳　同時褒美

孝行者　同領田邊城下大内町　町人　市右衛門　四十九歳　寛政元年褒美

孝行者　同領同所　市右衛門妻　ふく　四十歳　同時褒美

孝行者　同領加佐郡田邊門出村　百姓利左衛門悴　利兵衛　三十三歳　寛政元年褒美

農業出精　仙石越前守領分熊野郡橋爪村　百姓　長平　三十五歳　寛政二年褒美

農業出精　同領熊野郡橋爪村　百姓　嘉四郎　三十八歳　寛政二年褒美

農業出精　同領熊野郡鹿野村　百姓　善右衛門　四十七歳　寛政二年褒美

孝行者　同領　熊野郡壱分村　高田百姓　惣四郎　四十七歳　寛政二年褒美

孝行者　同領　熊野郡神崎村　百姓市助後家娘　ふし　三十一歳　寛政二年褒美

孝行者　同領　竹野郡高橋村　高田百姓　助五郎　二十四歳　寛政二年褒美

孝行者武左衛門

孝行者たみ

武左衛門ハ加佐郡岩田宮里村の百姓安左衛門か子なり
父ハ九十八歳母ハ八十四歳なりしか安左衛門か子二人
ありし兄ハ忠兵衛武左衛門ハ庄五郎といふ十年あまり
持る五石三斗あまりのうち三石五斗あまりを兄にゆつり
のこれる一石あまりの地を夫婦と貴乃ものとして
別居まかくれ住けるか此よりも父をハ武左衛門か
もとにむかへたり　たみハ同郡上東岡村の百姓太兵衛か
娘にて幼き時親に先立同村なる叔父清兵衛に

嵩りせて武左衛門に嫁せしより武左衛門持高をまたく不足
しく貧窮なりといへとも父母乃奉養に怠らす次父ハ
老乃病ありて行歩もかなはぬをいたつきなく食事を
すゝめ夜ハ夫婦ともに父の左右にはへりて寝所附ハ
身をはなれす行そく起居にもすゝめらかゝしく寝起
を慰め手足をさすりなとして二便ともに居所すまし介抱
を妻は志ふかく安楽をもて家乃うちのかはれにをしきる
せくく夜あけぬうちより洗ひきよむ紀常よろ父よろこひ
てまをこりなそおのこしるとて妻ハ冥加と
恐らをそろしくされとも手をあつそうさ事し終ぬ

やうにと夫に申さを夫の父にいひさうせしかは父も
志とさしにかんしそのり武左衛門か実母ハ元禄十二年の正
月にうせ次乃年七月同郡水間村の百姓森と云へる者か
妹をむかへて庄右衛門をうみしか武左衛門夫婦乃手に
孝心をまめなく実の子よりも親しかりさし夫婦もま
孝心ありしかりかさねて妻はまくしもろきに一しをも胡
麻をも納めしときいさゝかあやまれるまゝしをとしける
ものゝ買んといへるに親にくはせまゐらせんとてなりける
父此母左衛門か乃ふかくありし時薬餌をつくり
親族にもの武左衛門か母を何かなへしと武左衛門実母

乃墓に詣りてんとてかの草履をそなへんとせし彼妻
の見て此草履をそなへ給ハん事ハ冥加をそ恐しくらく
んといへ給ふ道理なりとてそのまゝそれ夫婦ともに田畑
小ゆくみちて十八年まで其娘か父のをしへにあらせ
日のうちに二三度ツゝ家にかへりて起居をとひ天氣
よきに出てあつくぬる所に住ひ居る二三年あまり月
乃比父の牛乃草刈に出んと妻にいひけり其の前比
発ちたまを恐め給へとて是を知しと夫乃田より
帰りても是を見てハ心もとなくおもひけれバそれとなく舘て父乃
出んといふてをも其はに帰りす人しとりいひすきさしらる

次の日まて出んといふにまち得て妻ハ父の詞よりと
えかくれまにこひゆきしも出そだけて草代出せるの
後孫のふるまひ領主よ聞えて寛保三年正月褒
美として持高の年貢をゆるさる其のうちハ武左衛門か
あるに水をあひていの見しらは隣乃ものく悦く出る
いかなれハかゝる事をおそれといふよいつもと思ひとらけ
しる其れぞ苦しくまれさよ領主の家此業へ給ハん事
をいの孫といひ父まをも孫らとしけるを紀よしとおもひ
きおえたるかとぬん

孝行者源太郎

源太郎ハ加佐郡公文名村の百姓伊右衛門か子也父なき
に賃稼乃事又ハ日傭乃業をなして数年をおくら
せ母もとき病者なるを源太郎ハ常に側にありて介抱し
やく人となるまてつかひてはたらきに山伐なとしく
看病せるを外に出るといへとも時をかきて家に
帰りて母に雨風をしのかせんるものハ人まて
まかりても人よりさきに帰りて母乃食事とゝのへ見
事の母は病ありて発のうちに風のいたみをうける
を源太郎まめやかにつかへしかは母の歳ゝ
思ひくらしかねさせる事なくもいたみ此世語なる

なまはんは今ハ亡きらに死なん事をのミ思ふといふを
源太郎きゝてむくつしくいふなとしてなかく給はん事
をねかひかくなるも乃のひとつと慰めりしを折くハ
湯をもとてせ二夜もろくにいねす村乃うちより
もおく母乃病をとひ来ていたはりなきやましからん
也いかにして此尊ひまなるをていさかひよろこひ
かるをみるにおよひ悪しくもなきほとも近在の人ま
民部乃きこえひとしも覚ゆゑといへる人常の明和五年
領主よりも褒美として米をあたへ給ひし年十四なり

○

但馬國

孝行者　御代官支配所　朝来郡岩屋谷村　百姓　吉助　六十五歳　明和元年御褒美

孝行者　同支配所　養父郡若井村之内中瀬分　百姓　浅五郎　四十一歳　天明八年御褒美

孝行者　仙石越前守領分　養父郡笠谷村　高田百姓　孫右衛門　歳不知　享保七年褒美

孝行者　同領　美含郡竹野浜村　高田百姓　太郎市　歳不知　享保十二年褒美

孝行者　同領　出石郡口赤花村　高田百姓与惣左衛門娘　てう　歳不知　元文二年褒美

奇特者　同領　出石郡口赤花村　庄屋　平八　歳不知　元文四年褒美

孝行者　同領　出石郡山之中久畑村　高田百姓吉左衛門娘　みき　歳不知　元文四年褒美

孝行者　同領　氣多郡岩中村　在田百姓五左衛門娘　ろく　歳不知　寛保元年　褒美

孝行者　同領　美含郡早波村　百姓　六助　歳不知　寛保元年　褒美

孝行者　同領　美含郡訓谷村　百姓四郎左衛門娘　かめ　歳不知　寛保三年　褒美

孝行者　同領　美含郡、西南垣村　百姓　次郎七　歳不知　延享二年　褒美

孝行者　同領　出石郡上紺山村　在田百姓惣八姉　きく　歳不知　寛延元年　褒美

孝行者　同領　出石郡小谷村　百姓平左衛門娘　いち　歳不知　寛延三年　褒美

孝行者　同領　出石城下新町　町人水石屋勘七妻　せん　歳不知　宝暦三年　褒美

孝行者　同領　氣多郡日置村　百姓　俊左衛門　歳不知　宝暦五年　褒美

孝行者　同領　出石城下裏町　町人桶屋程四郎弟　徳四郎　歳不知　宝暦五年　褒美

孝行者　同領　出石郡宮内村　百姓甚七娘　くめ　三十七歳　宝暦五年　褒美

孝行者　同領　出石城下宵田町　町人魚屋庄三郎娘　その　歳不知　宝暦六年　褒美

孝行者　同領　出石城下新町　町人徳三郎娘　むめ　歳不知　宝暦八年　褒美

孝行者　同領　出石城下門東町　町人茂左衛門娘　かん　歳不知　宝暦八年　褒美

孝行者　同領　氣多郡堀村　在田百姓孫三郎娘　くめ　歳不知　宝暦九年　褒美

孝行者　同領　氣多郡上石村　百姓勘右衛門娘　ぬい　三十六歳　宝暦九年　褒美

孝行者　同領　出石城下田結庄町　町人鍋屋源七悴　又四郎　十四歳　宝暦十一年　褒美

孝行者　同領　出石城下八木町　町人播磨屋又三郎娘　せよ　歳不知　宝暦十二年褒美

孝行者　同領　出石郡伊豆村　百姓長三郎娘　里ん　四十五歳　宝暦十二年褒美

孝行者　同領　気多郡池上村　百姓　吉右衛門　歳不知　明和元年褒美

孝行者　同領　出石郡福居村　百姓七郎左衛門娘　かゆ　三十七歳　明和二年褒美

孝行者　同領　気多郡土居村　新田百姓　甚六　歳不知　明和四年褒美

孝行者　同領　美含郡竹野浜村　百姓　久左衛門　歳不知　明和四年褒美

孝行者　同領　気多郡土居村　新田百姓　甚四郎　三十五歳　明和四年褒美

孝行者　同領　同所　甚四郎弟　惣四郎　三十二歳　同時褒美

孝行者　同領　養父郡玉見村　新田百姓定七妻　さい　三十二歳　明和四年褒美

孝行者　同領　出石郡寺坂村　百姓孫右衛門妻　さよ　三十歳　明和五年褒美

孝行者　同領　出石郡薬王寺村　百姓　与助　四十六歳　明和六年褒美

孝行者　同領　出石郡平田村　百姓　清五郎　五十歳　安永二年褒美

孝行者　同領　出石郡寺坂村　新田百姓　七右衛門　五十三歳　安永三年褒美

孝行者　同領　出石郡奥小野村　百姓　次郎七　歳不知　安永五年褒美

孝行者　同領　同所　次郎七妻　とめ　歳不知　同時褒美

孝行者　同領　美含郡鬼神谷村　百姓　幸左衛門　四十二歳　安永五年褒美

孝行者　同領　美含郡浜須井村　百姓　五左衛門　三十三歳　安永五年褒美

孝行者　同領　気多郡伏村　百姓　幸助　三十七歳　安永五年褒美

孝行者　同領　出石城下門東町　町人与平次娘　ろく　二十九歳　安永六年褒美

孝行者　同領　出石城下田結庄町　町人　与吉　歳不知　安永八年褒美

孝行者　同領　養父郡養父市場村　分田百姓　勘七　五十二歳　安永八年褒美

孝行者　同領　出石郡嶌村　百姓　次郎平　三十二歳　安永九年褒美

孝行者　同領　同所　次郎平妹　つね　二十三歳　同時褒美

孝行者　同領　出石郡相田村　百姓　太七　四十八歳　天明元年褒美

孝行者　同領　養父郡麦梅村　百姓　五左衛門　歳不知　天明元年褒美

孝行者　同領　美含郡鬼神谷村　分田百姓甚左衛門聟　喜四郎　四十四歳　天明元年褒美

孝行者　同領　美含郡中野村　大庄屋次郎作　七郎左衛門　三十一歳　天明元年褒美

孝行者　同領　美含郡沖浦村　百姓　吉兵衛　二十八歳　天明元年褒美

農業出精　同領　出石郡小坂村　百姓　源太郎　三十歳　天明元年褒美

農業出精　同領　出石郡小坂村　百姓　杢助　二十七歳　天明元年褒美

孝行者　同領　出石城下新町　町人　惠八　四十四歳　天明元年褒美

孝行者　同領　出石郡出合市場村　分田百姓吾左衛門娘　せん　七十歳　天明二年褒美

孝行者　同領養父郡浅谷村　百姓　文次郎　三十五歳　天明三年褒美

孝行者　同領同所　文次郎妻　りよ　二十八歳　同時褒美

孝行者　同領氣多郡堀村　百姓長右衛門妹　いそ　五十一歳　天明三年褒美

孝行者　同領美含郡香住村　百姓傳九郎娘　きく　四十六歳　天明四年褒美

孝行者　同領氣多郡加陽村　無田百姓　又右衛門　三十二歳　天明四年褒美

孝行者　同領出石郡茶王寺村　百姓　忠七　四十七歳　天明四年褒美

孝行者　同領同所　忠七妻　とよ　四十六歳　同時褒美

孝行者　同領養父郡上小田村　百姓　猶次郎　三十六歳　天明四年褒美

孝行者　同領美含郡丹生地村　百姓　惣七　四十三歳　天明四年褒美

孝行者　同領美含郡一日市場村　無田百姓　庄助　四十六歳　天明五年褒美

兄弟睦者　同領美含郡坂江村　百姓　与七郎　四十七歳　天明五年褒美

農業出精　同領出石郡宮内村　百姓　半三郎　八十一歳　天明六年褒美

奇特者　同領出石郡桐野村　百姓　与左衛門　六十九歳　天明六年褒美

奇特者　同領出石郡桐野村　百姓　佐右衛門　六十二歳　天明六年褒美

孝行者　同領出石城下川原町　町人　半七　四十歳　天明七年褒美

孝行者　同領出石郡三宅村　百姓　冨右衛門　四十六歳　天明七年褒美

孝行者　同領　出石城下魚屋町　町人　久四郎　三十八歳　天明八年褒美

孝行者　同領　氣多郡府市場村　百姓　弥平次　五十四歳　寛政元年褒美

家内睦者　同領　出石城下魚屋町　町人并問屋　宗監　七十歳　寛政元年褒美

孝行者　同領　同所　宗監悴　市郎兵衛　五十二歳　同時褒美

家内睦者　同領　同所　同　伝蔵　歳不知　同時褒美

家内睦者　同領　同所　同家内　六人　同時褒美

家内睦者　同領　出石郡暮坂村　百姓　市兵衛　歳不知　寛政元年褒美

孝行者　同領　同所　市兵衛悴　喜左衛門　五十七歳　同時褒美

家内睦者　同領　同所　同家内　五人　同時褒美

孝行者　同領　美含郡若松村　百姓　伊兵衛　六十六歳　寛政二年褒美

農業出精　同領　出石郡栗尾村　百姓　与左衛門　六十一歳　寛政二年褒美

農業出精　同領　出石郡中披森村　百姓　忠右衛門　四十三歳　寛政二年褒美

農業出精　同領　出石郡大河内村　百姓　六左衛門　五十六歳　寛政二年褒美

農業出精　同領　出石郡口赤花村　百姓　若三郎　五十九歳　寛政二年褒美

農業出精　同領　同所　若三郎弟　太兵衛　五十五歳　同時褒美

農業出精　同領　出石郡小谷村　百姓　幸三郎　四十九歳　寛政二年褒美

農業出精　同領 出石郡小谷村　百姓　源右衛門　六十七歳　寛政二年 褒美

孝行者　同領 養父郡養父市場村　百姓　八郎右衛門　五十九歳　寛政二年 褒美

孝行者　同領 出石城下新町　町人忠五郎妻　かね　三十八歳　寛政二年 褒美

奇特者　同領 出石城下魚屋町　町人伏見屋　忠八　六十三歳　寛政二年 褒美

家内睦者　同領 出石城下博労町　町人綿屋　小四郎　七十歳　寛政二年 褒美

奇特者　同領 出石城下博労町　町人中嶋屋　半之丞　四十三歳　寛政二年 褒美

孝行者　同領 出石郡小谷村　百姓　源十郎　四十六歳　寛政二年 褒美

孝行者　同領 出石郡佐田村　百姓　源右衛門　三十八歳　寛政二年 褒美

孝行者　同領 出石郡佐田村　百姓　利七　三十三歳　寛政二年 褒美

孝行者　同領 出石郡久畑中村　百姓　惣五郎　三十二歳　寛政二年 褒美

孝行者　同領 同所　惣五郎娘　せん　三十五歳　同時 褒美

孝行者　同領 出石郡佐々木村　百姓　喜六　四十三歳　寛政二年 褒美

孝行者　同領 同所　喜六妻　たか　四十九歳　同時 褒美

孝行者　同領 出石郡栗尾村　百姓清五郎妻　志ゆん　四十五歳　寛政二年 褒美

孝行者　同領 出石郡口赤花村　無田百姓与三右衛門娘　その　二十歳　寛政二年 褒美

孝行者　同領 氣多郡府市場村　百姓　庄右衛門　五十六歳　寛政二年 褒美

孝行者　同領　出石城下八木町　醫者　川端玄泰　二十四歳　寛政二年褒美

奇特者　同領　美含郡八原村　組頭　庄三郎　六十九歳　寛政三年褒美

孝行者　同領　出石城下裏町　町人庄市郎後家娘　さん　四十二歳　寛政三年褒美

孝行者　京極錦三郎領分　城崎郡豊岡宵田町　町人鴻屋　長七　三十五歳　安永八年褒美

孝行者　同領　城崎郡豊岡寺町　町人骨柳屋　市左衛門　歳不知　天明二年褒美

孝行者　山名靱負知行所　七味郡小代庄水間村　百姓　喜之助　四十四歳　寛政二年褒美

孝行者　同知行所　七味郡小代庄茅野村　百姓新之助娘　ひち　三十歳　寛政二年褒美

孝行者　山名越前守領分　氣多郡堀村　万歳　福太夫　四十六歳　寛政元年褒美

孝行者淺五郎

淺五郎ハ養父郡吉井村のうち中瀬分に百姓なり父
名ハ二十五郎若年よりして母ハ久しく病に臥りて
歩行もなりかぬるくらゐなれは寝起を助るにもかなはぬ
ぬるを淺五郎よく労ひいたはり朝夕起臥食事を調
へ菜烟草の類をとゝのへ父母の不自由にいたさぬやうあれこれ
己か食をとゝのへぬるにも一升の米をもとめ
さつまいもを食し其外人の田を小作して又その里
小屋にねて農業をたしなみ日毎に出行その
方角をとくりとつとめ己かあらぬうちに人よりはやく

隣乃子ともをたのみて側にはなれしめ其体には必
添ひて母か食事をすゝめ白くかくはなは八安く居さしめ
まひあくまて胡乃用をなしく朝にハまた飯の時ふ
ふたを粥ましてくはせ夏のあつき夜いねかぬまゝハ
蚊を追ひ涼しめてしかもえも秋の冷さ見ゆちなは
冬には烟草をとるのむと人をも空さる身か上氣し
て頭痛と目病ひあらすまとちうまて味噌焼をそを
塩茶をも服させよく候さとり腰膝をさすりてなれよ
くいねるをまつ初さ汁ようまいさくうと母のくらし
をむくことなく妻をめとらすとあまし

母のたまかなるを孫たちあらぬ中とても縁につきてまかしやを
しとを見るもの行をれそていふとしてもうひ候
如くしてよと病に母れ四十にあまり上を妙来のおとん
りなりしと母とていまた又別に妻むかへよといふ
孝養のさはりとおもはんやとて独りさとも
常乃者にも見ちる念もひ村のをさ主人し年貢乃
期にをくれ事なく天明のうちに二度の凶年に
も滞りなく納めり親族に睦く朋友に交あつく
物あちひかとまもしる邪しく同六年四月諸家より
火おこりて風もはけしく家れもえ候て母と背おひて

立乃さぬされて貧乏家の凋衰も甚く失ひたるに
寞の字よろしく稼ぎて汲く困窮に及ぶとしても
つゝしみ此上見やるまゝを悼き村乃うちにもわく年に
もとめて在りしに母は寛政同七年八月に七十四
歳にて病みしを恐がるにも医薬にも心を尽し
久しくつかへ同八年九月御代官稲垣藤四郎によって
あまねしに御褒美として銀をとらせかしたまはる

因幡國

家内睦者	松平相模守領分 八東郡養若谷村	百姓	吉九郎	六十六歳	宝暦三年褒美
家内睦者	同領 同所	吉九郎家内	二十三人		同時褒美
孝行者	同領 鳥取城下奥町一町目	町人借家住新助娘	とよ	十七歳	寛政四年褒美
孝行者	同領 鳥取城下元奥町二町目	家守福本屋次郎兵衛妹	せく	六十一歳	寛政四年褒美
孝行者	同領 八上郡稲荷村	庄屋	五郎吉	五十四歳	寛政四年褒美
孝行者	同領 岩井郡茂迫村	本田百姓	七右衛門	六十三歳	寛政四年褒美
孝行者	同領 岩井郡長郷村	本田百姓廣七妻	ゆき	四十七歳	寛政四年褒美

○孝行者　同領　高草郡湖山村　百姓　宗次郎　六十八歳　寛政四年褒美

家内睦者　同領　同所　宗次郎家内　八人　同時褒美

奇特者　同領　高草郡下味野村　百姓　庄兵衛　五十七歳　寛政四年褒美

孝行者　同領　智頭郡用瀬村　百姓　勘六　五十三歳　寛政四年褒美

孝行者　同領　智頭郡志麻殿村　之田百姓　幸右衛門　四十一歳　寛政四年褒美

孝行者　同領　智頭郡山根村　百姓　茂兵衛　四十二歳　寛政四年褒美

○孝行者　同領　智頭郡八河谷村　百姓勘次郎悴　平吉　十五歳　寛政四年褒美

孝行者　同領　智頭郡古市村　百姓　傳九郎　五十七歳　寛政四年褒美

孝行者宗次郎

宗次郎ハ高草郡湖山村の百姓なり幼き時より父母
によくつかへかまどをもちけるに父母乃心孫をもうけ母
なくなりてハ其とさらに父伊右衛門をよくやしなひ家
貧しけれとも和順して朝夕の食事も父にハ冷さる
飯をあたへ其次雑菜までも心をつくし又酒を好む
といへとも貧しき身に求る事かなハされとかくして麻
酒代をくみたてく己も好むものなれとも露たりとも
のむ事なく酒ハ門もいつも父乃数よりましと父のみ
にまいらせ幼きものに買ひやりかと門をたのしめる事も

まくからぬものゝ農業のいとまなかれどもとく〳〵かへり
行てかひ〳〵しく父をやしなひ去裏へ出る時も朝夕の清
くすりなどを思ひ出るとき又手に出ゆく事なく耕作に
いとまなくとも必つめ行にのこり居るよしたるをしくと
父のよろこびをさだめ日々のうちにも二度づゝハ必
ゑりつゝ夜ごと其側に寝して冷暖りのをつゝめ起臥
の手すけをなし厠にゆく時も夜中にかならず手を引
ゆきけり宗次郎が綿ぬきひかくのごとくなるハ一家の者
初よりくるたる孝順のみならずそれを村のうちものゝひと
つくへて褒美にけるものをハ伊右衛門よりそやうこと年にけるを地

こゝのは宗次郎を見あつかひをそれいかゝとしも少なし
なりて寛政四年四月領主より褒美として銀をあたふ
時に宗次郎六十八歳父伊右衛門ハ八十四歳なりこれを見る
て兄弟姉子孫をあはせて九人持高二十石一斗三升なり

孝行者平吉

平吉は智茂郡八河谷村百姓高田石右衛門がせがれ也
其百姓勘次郎が子なりしか家よりたえず貧しかれども
八九歳の頃より野山に出て草刈にゆきつゝ働きけり
菜蔬をさかなに冬は楪の実をつみその木の枝をとりつゝ
かゝる水にひたして鍋にし小粉備ふさらにけ父たる人へりしを

わらあつくへてみまて味よきもの炊ものを持帰りて
父にすゝめ兄姉には母と姉とにすゝむ十歳比より朝夕
不動仏を拝しけむ家より一町はかりはなれの辻堂なる
薬師仏并に弘法大師の石像あるに詣ぬるを
比まうでて草花を手向休日にも門柳をさゝけてそむ
線香をかならす供料として賽銭を行
そとせん菩提をとふらひつ父の持病に頭痛を病ぬる時は
寺にまうてにかやかやと人々のおそるゝ程ありしを去年の
養生をせしかとも祝のみとまて招き迎へて父の病平癒ぬ
その後養身の事をもちひしまでもなしとは思ひけり

片田舎の事なれハ何にしても魚ひろひしを我身に食す
ることなく細かにおもひいりて帰りて父に
すゝめけるそのうちにも勝ける旅味あるをさゝけ
父此病によりて倶ならぬ事ハいつれも寝まくらにそひ
てもあらひ佛神を祈りけるにもあらそこ雑談友と
事ひし事なく此一二年ハ漁に父のかはりに出る
事ありても外のものハ休むことあれとも吉次はいとはす
のみならく父もよろこひけり孝心なる故にや母姉も
倶によろこひけるにや村の人いひつたへけり寛政
四年四月領主より褒美として銀を下されけり時に十六吉

十五歳なりしと

孝義録巻之三十